

市民リポーター

幼いボランティア活動

財団法人婦人少年協会が主催して行われた「老人介護講習」を受講したメンバーが主になって、ボランティアグループ「たんぼぼの会」を結成しました。私がそのメンバーの一員であることから、会の苦労話を交えながら、会及び老人介護についてレポートします。

平成二年秋に行われた約二カ月間の講習の全日程を欠席することなく終了しました。受講したメンバーのほとんどが参加して、「たんぼぼの会」を結成しましたが、現在は約二十人で活動しています。

特別養護老人ホーム神山荘は心

身上、常に介護を必要とし、在宅での介護が困難な方が利用できる施設です。初めてのボランティア活動は、その神山荘で入浴の介助でした。利用者を車いすでお風呂場に案内し、衣類の着せ替えです。現場に入っていざとなったら頭の中が真っ白になり、着替えもなかなかはかどらない。「あつ、痛い、痛い」と利用者。「あわててごめんなさい」。利用者に声を掛けてやる余裕すらなく、汗だくです。そうこうしていると、利用者が「こちらが痛い」と小さな声でつぶやき、私たちを気遣ってくれる。初日はボランティアに行った私たちが、施設の職員の足手まといになっていく状態でした。施設を帰るとき「お陰様でありがとうございました」とお礼を言い、玄関を出ると、施設の外でみんな一同に「頭で分かっているもなかなかね」、「手足は痛い方から先に着せなきゃね」などと立ち話をし、復習に夢中の初日でもありません。

リポーター 佐々木 フヨさん
(釈迦内・ニツ森)

お手伝いも回数を重ねてくると、少々介助にも余裕がでるようになります。そして、施設の年間行



介護のお手伝いをする佐々木リポーター(左)

事にも参加し、なごやかに、楽しくお手伝いすることができるようになりました。これも「たんぼぼの会」を、遠くから謙虚な気持ちで受け入れて育ててくださった神山荘の利用者、職員のかたがたのおかげと、感謝するこのごろです。会員はボランティア活動を通じて自己を高め、会員相互の親睦と地域社会の連帯意識を高めることに努力してきました。会では、研修会や毎月の定例会の開催、会報発行のほか、平成三年から神山荘の入浴介助と年間行事のお手伝い、平成五年からは福祉センターでのリハビリ学級、音楽教育及び子育て支援のお手伝いなどの活動をし、今年で七年目になります。

「たんぼぼの会」でお世話になつていく神山荘の村松施設長、若松補佐のお二人からお話を伺ってみました。神山荘では、生活空間を拡大して利用者に楽しく、安心して生活していただくために、いろいろと配慮されていらっしゃるのとのことでした。年間行事でも、お茶会、お花見、シルバー運動会、納涼盆踊り、敬老会など、いろいろアイデアを出し合い頑張っているようです。また、行事を通じて家族に訪問してもらったり、施設の生活にリズムをつけるために地域のかたがたとコミュニケーションを図ったりもしているようです。一昨年から開設された「茶房かみやま」には私たちもお手伝いをさせていたしていますが、とても好評のようです。「茶房かみやま」の日には、軽度の利用者やデイサービスのかたがたは、自由に好きなコーヒーなどを召し上がっています。その場で再発見があったり、楽しい交流ができたたりしているようです。また、この日は重度の利用者のかたがたを特に手厚く介護する日とし、入浴などをさせています。そのため、この日はお互いにとってとても意義があるのではないかといいました。ボランティア、人との心のふれあい、無理せず、楽しく活動。